

梅若会素謡会

令和三年六月二十日(日)十三時開演(十二時開場)

梅若能楽学院会館

入場料 三千円

解説

連吟

賀茂

ロンギ

野崎美歩

伶以野陽子

鈴木矜子

三吉徹子

高橋栄子

山村庸子

シテ 富田雅子

仕舞

忠度

山中迓晶

素謡

松風

梅若紀彰

梅若長左衛門

山崎正道

仕舞

弱法師

松山隆雄

素謡

安達原

松山隆之

川口晃平



梅若会素謡会 令和3年6月20日(日)

あだちがはら
素謡 『安達原』

□配役 前シテ(老婆) ・ 後シテ(鬼女) 松山 隆之
ワキ (東光坊 祐慶) 川口 晃平

□あらすじ

那智からの旅を続けて奥州安達ヶ原に辿り着いた山伏一行が老婆に宿を求める。たつての願いに山伏一行をあばら家に招き入れた老婆は糸車を紡ぎながら浮世のはかなさを嘆きつぶやいていた。

夜が更けて寒くなってきたので老婆は「山に薪を取りに行くが、その間に自分の閨の内を見ないように」と言い残して出かける。

しかし老婆の言葉をかえって怪しんだ山伏の従者が閨の内を覗く。するとそこには人の死骸が山と積まれてひどい臭気である。さてはこれが有名な安達ヶ原の黒塚に籠ると言われている鬼女なのかと気づいて一行は逃げようとした。するとその時、先程の老婆が鬼女の姿となって野風山風を吹き起こし、火焰を放ちながら追いせまってきた。やむなく踏みとどまった祐慶達が五大尊を念じ、明王に祈り続けると、さすがの鬼女も弱りはてて夜嵐に紛れてその姿を消したのであった。

よるぼうし
仕舞 『弱法師』 (俊徳丸) 松山隆雄

□あらすじ

俊徳丸は父に勘当され今は乞食の身となり盲目である。

彼は勧められた日想観(春分の日入り日。日没に浄土を観想する行)によって、かつて見た難波の風物が蘇り、心の中に光が観えるのです。そして興奮のあまり、人に突き当たって倒れてしまいます。するとそれを見ていた周りの人々があざけ笑うのでした。

他に

素謡 「松風」シテ 梅若長左衛門 ツレ 梅若 紀彰

仕舞 「忠度」

連吟 「賀茂」

